

なごや子ども応援委員会について

名古屋市教育委員会
子ども応援室
川岸 晃子



なごや子ども応援委員会設置の経緯



なごや子ども応援委員会の成り立ち

○2013年7月 名古屋市立中学校での自死事案発生

⇒ 名古屋市長 二度と同じようなことが起こらないようにしたいと、アメリカ(ロサンゼルス)に訪問した際、アメリカの学校における支援体制を調査。

○2014年4月 なごや子ども応援委員会設立

⇒ 名古屋市立中学校11校に、SC・SSW・SP(スクールポリス)・SA(スクールアドバイザー(現スクールセクレタリー))の4職種を配置)

設立当初は、現場職員44名、事務局職員7名からのスタートだったが、現在は、現場職員175名、事務局職員23名(兼務1名含)まで拡大している
※他にも非常勤SCが当組織の所管となっている

子ども応援委員会活動の基盤となる理念

名古屋市では、「一人ひとりの人生の基盤としての理念」に基づく支援を推進

～あなたもわたしも「いま、ここ」にいたいと思える場をつくる～
(ナゴヤ子ども応援大綱から)

- ・ 従来の「人間観」、「社会観」、「教育観」を見直すもの
- ・ この理念が市の行政に広く浸透することで問題が解消することを目指している
- ・ ケア論に準じている



なごや子ども応援委員会の 組織について



なごや子ども応援委員会

日本におけるSCの歴史

いじめの深刻化や不登校児童生徒の増加など、児童生徒の心の在り様と関わる様々な問題が生じていることを背景として、児童生徒や保護者の抱える悩みを受け止め、学校におけるカウンセリング機能の充実を図るため、臨床心理に専門的な知識・経験を有する学校外の専門家を積極的に活用する必要が生じた。

- 平成7年(1995年)9月から開始。
- 当初は、全国で154校が配置。愛知県では、3校のみ。
- 平成18年度から全国の中学校 7,692校(4校に3校)に配置されるとともに、小学校、高等学校にも派遣が広がる。
- 現在も配置時間等の勤務条件は各自治体により異なる。平均週1回、4~8時間といった学校が多い。

子ども応援委員会の特徴

なごや

子ども応援委員会

さまざまな悩みや心配を抱える子どもや親を総合的に援助するため、常勤の専門職を学校現場に配置しています。
子どもたちと普段から関わりながら、すべての子どもたちの健やかな発達を支援し、子どもたちが主体的に人生の針路を探ることができるよう応援しています。



子ども応援委員会リーフレットから

なごや子ども応援委員会のスタッフ

主任HP 主任総合援助職

- 各職種間の連携協力を統括
- ブロックの管理運営及びブロック間の連携協力に係る調整
- 重大事案発生時における緊急支援組織を運営等

8名



SS スクールセクレタリー (会計年度)

- ブロック内の職員の労務管理補助・予算管理補助

17名

SSW スクール ソーシャルワーカー (常勤)

- 社会福祉の専門的知識・経験を活かし、児童生徒が置かれた環境への働きかけ
- 関係機関（区役所・児相・地域役員等）との連携

29名

SP スクールポリス (会計年度)

- 元警察官
- 学校内外の見守り活動や必要に応じた警察との連携

17名

SC スクール カウンセラー (常勤)

- 心理の専門的知識・経験を活かし、心理教育等の観点に基づいた学校生活全般への援助
- 児童生徒、保護者、教職員への相談対応

112名

※令和2年度より小学校・高校等の非常勤SCも応援室の所管である(306校・319名)
令和5年度より幼稚園、大規模校(小851人以上、中801人以上)の小中学校に配置

SC・SSWの保有資格（常勤のみ）

常勤SC→臨床心理士 101名
(118名中) 公認心理師 104名
公認心理師資格のみ 11名

資格取得前の新卒者も
採用されている等の理由で
100%ではない

常勤SSW→社会福祉士 19名
(24名中) 精神保健福祉士 15名
公認心理師 13名

どちらもダブル、
トリプル保有者あり

（令和4年度調べ）



当組織常勤SCの特徴

- 幅広い年齢層 20代…16.0%、30代…30.3%、40代…33.6%、50代…11.8%、60代…8.4%
- 全国からの応募 出願時の住所が東海三県以外 21.8%
- 幅広い領域から 名古屋市非常勤SC経験者 28.6%（34名）
医療現場経験者 47.1%（56名）
※重複あり

※令和4年度調べ



なごや子ども応援委員会

名古屋市の非常勤SCについて

○幼稚園	年間70時間	20園
小学校（850人以下）	年間280時間	262校
	年間560時間	12校
中学校（801人以上）	年間280時間	5校
高等学校	年間700時間	15校
特別支援学校	年間280時間	5校

○実人数 319名

○個別のカウンセリングが職務の中心。いじめや不登校等の問題について児童生徒の個別相談や心のケアや保護者・教職員に対する専門的立場からの助言を行う。

○途切れのない支援のための非常勤SC・常勤職との緊密な連携
（月1回の定例打合せ・小学校6年生への授業・研究協議会等）

※令和5年度予算

学校の組織（中学校）

子ども応援室長

SC

校長

教頭

0 学年

事務
職員

養護
教諭

1 年
学年主任

担任
担任

生徒指導担当

担任 学年付

2 年
学年主任

担任
担任

生徒指導担当

担任 学年付

生徒指導主事

3 年
学年主任

担任
担任

生徒指導担当

担任 学年付

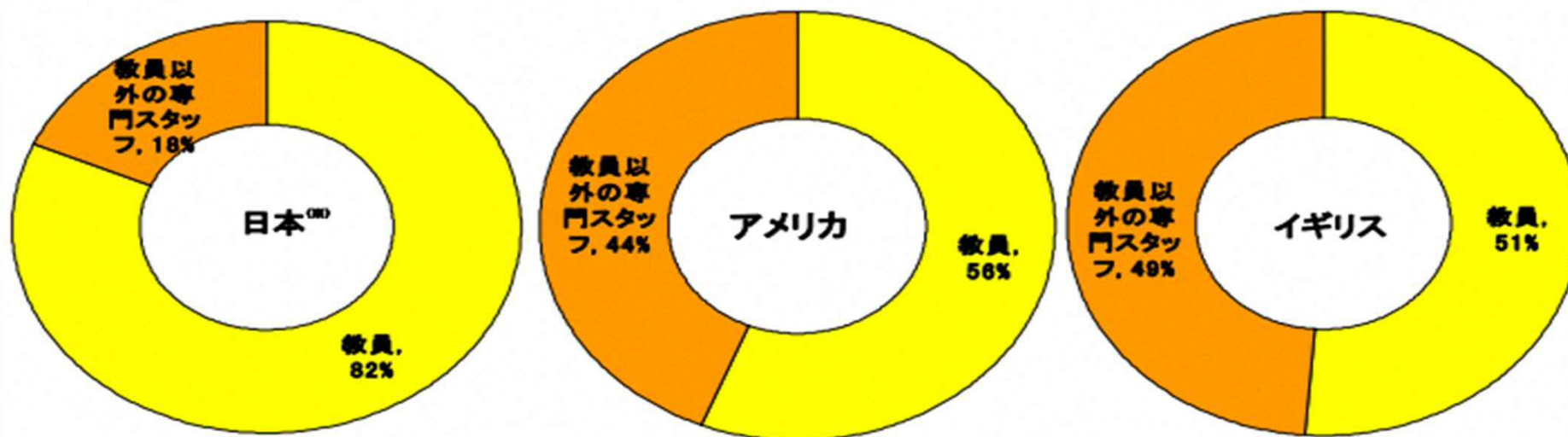


なごや子ども応援委員会

各国における学校における専門職の位置づけ

専門スタッフの割合の国際比較

○初等中等教育学校の教職員総数に占める教員以外の専門スタッフの割合



出典: 文部科学省「学校基本調査」(平成27年度)、“Digest of Education Statistics 2014”、“School Workforce in England November 2013”

※1 日本は小・中学校に関するデータ

※2 日本における専門スタッフとは、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭、事務職員、学校栄養職員、学校図書館事務員、養護職員、学校給食調理従事員、用務員、警備員等を指す

※3 アメリカにおける専門スタッフとは、ソーシャルワーカー、医療言語聴覚士、就職支援員等を指す

※4 イギリスにおける専門スタッフとは、司書、メンター、医療及び看護職員等を指す

なごや子ども応援委員会の 活動内容について



なごや子ども応援委員会

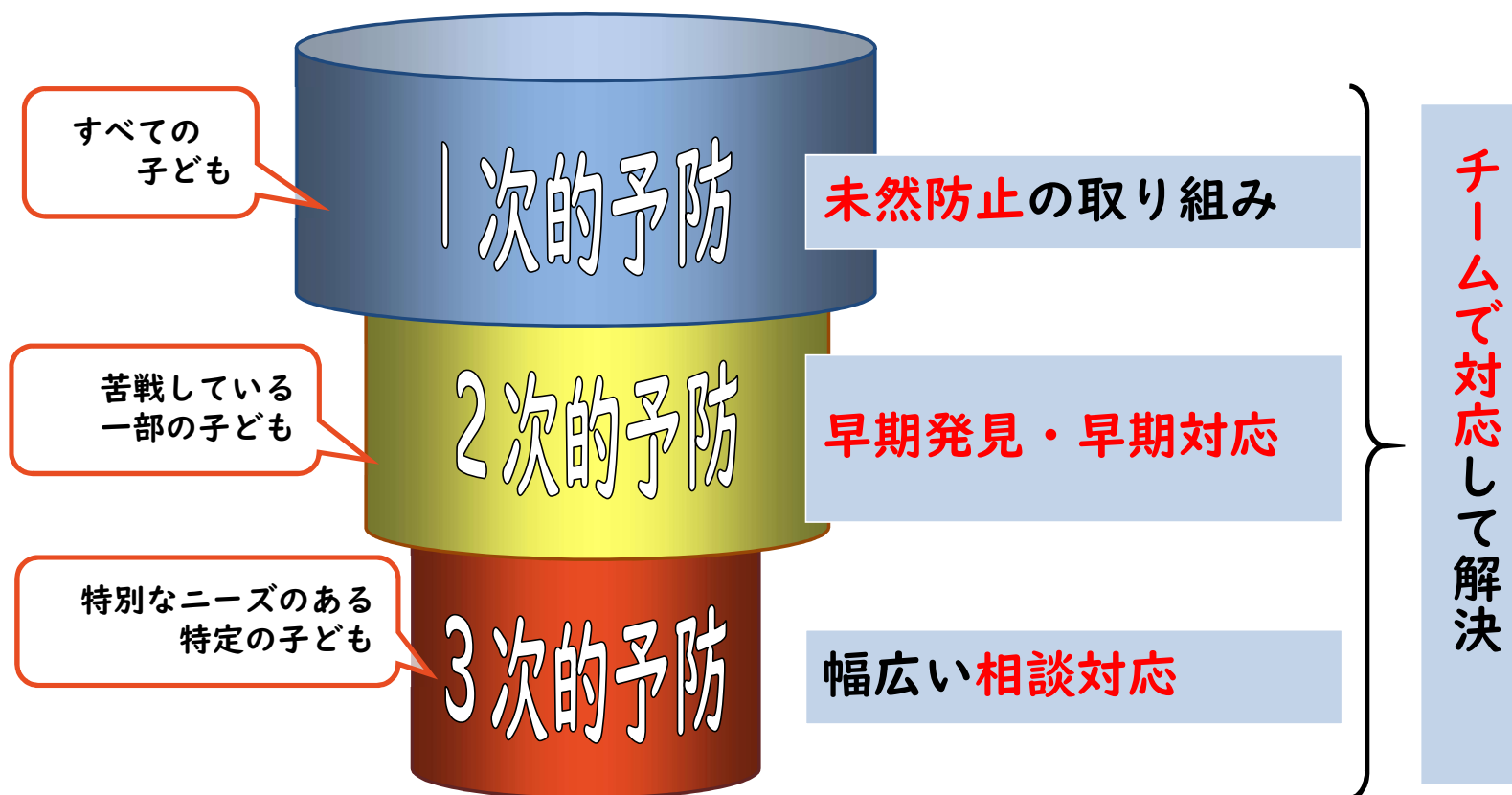
スクールカウンセラーの業務

1. 児童生徒に対する相談・助言
2. 保護者や教職員に対する相談
(カウンセリング、コンサルテーション)
3. 校内会議等への参加
4. 教職員や児童生徒への研修や講話
5. 相談者への心理的な見立てや対応
6. ストレスチェックやストレスマネジメント等の予防的
対応
7. 事件・事故等の緊急対応における被害児童生徒の
心のケア



文部科学省より

なごや子ども応援委員会の活動



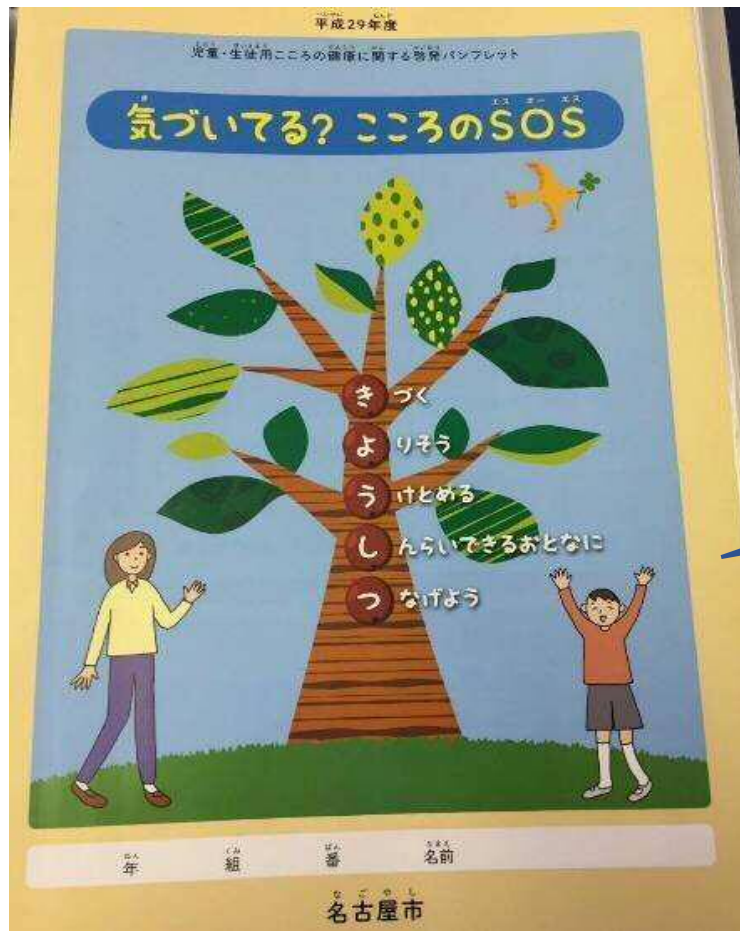
1 次的予防

●在籍するすべての子どもに向けて

- ① 日常的な学校生活の見守り活動（登下校・集会・授業・行事等）
 - ② 全員面談（小学校4年生・中学校1年生）
 - ③ こころの授業（自殺予防教育・ストレスマネジメント等）
 - ④ スクールカウンセラー便り
 - ⑤ 相談室開放（昼休み）
 - ⑥ 保護者向け講演
 - ⑦ 教員研修（現職教育）
- など



自殺予防教育



こころのSOS教育

【ねらい】

- ・自分の心の状態に気づく
- ・ともだちのSOSに気づく

ストレスマネジメント教育

授業の流れ



- ## ①ストレスについて学ぼう

15分

- ## ②ストレスについてのワーク

10分

- ### ③おたがいのストレスについて アドバイスしあおう

15分

- #### ④全員面談についての説明

3分



何とかなるさ！心の荷物～ストレスとの付き合い方を考えてみよう～

出席番号	氏名



たにとって、次のストレッサーはどのくらいの重さですか？

…楽ちん、軽い 1…ちょっと重い 2…重い 3…かなり重い

見ていてところで失敗しちゃった	
った人と話すこと	
タブレット) やゲームを3日間使用禁止にされた	
長すること	
り行き先が、急に「宇宙(月)」に変更になった	



にとっての重いストレスーと、そのストレスーに対する自分の受け止め方を
てみよう。

ストレッチャー	受け止め方

時間	内容	備考
8:30	1.導入 (3分) ・ T1、T2 挨拶 (職名+名前) ・ 授業の目的及び概要の説明 「今日の授業、タイトルは～です。」 「ミニ授業でお伝えした通り、今日の授業の大きな目的は、自分を大切にできるようになることです。自分を大切にするって具体的にはどういうことなのか、ミニ授業でいくつかお伝えしましたが、6年生とは、その中でもこの自分を追い詰めない考えや行動について一緒に学びます。心の荷物、ストレスとの上手な付き合い方について学びますよ」	スライド① タイトル T2 スライド②

2次的予防

●苦戦している一部の子どもたちへの支援

- ① 日常的な学校生活の見守り活動での早期発見
- ② 各種アンケートの分析（WEBQU・心のSOS等）
- ③ 全員面談での早期発見
- ④ 校内会議での助言（生徒指導部会・教育相談部会等）
- ⑤ スクリーニング校内チーム会議での助言（YOSS） など



3次的予防

●問題を抱えた特定の子どもへの支援

- ① 個別の相談対応
 - ・ 子ども・保護者の面談（家庭訪問含む）
 - ・ 教員へのコンサルテーション
- ② 関係機関との連携（医療機関・児童相談所・区役所等）
- ③ ケース会議への参加（校内・関係機関等）

など



ブロックでのチーム対応

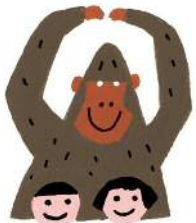
●子ども応援委員会の特徴（常勤）

○週1回半日のチーム会議の実施

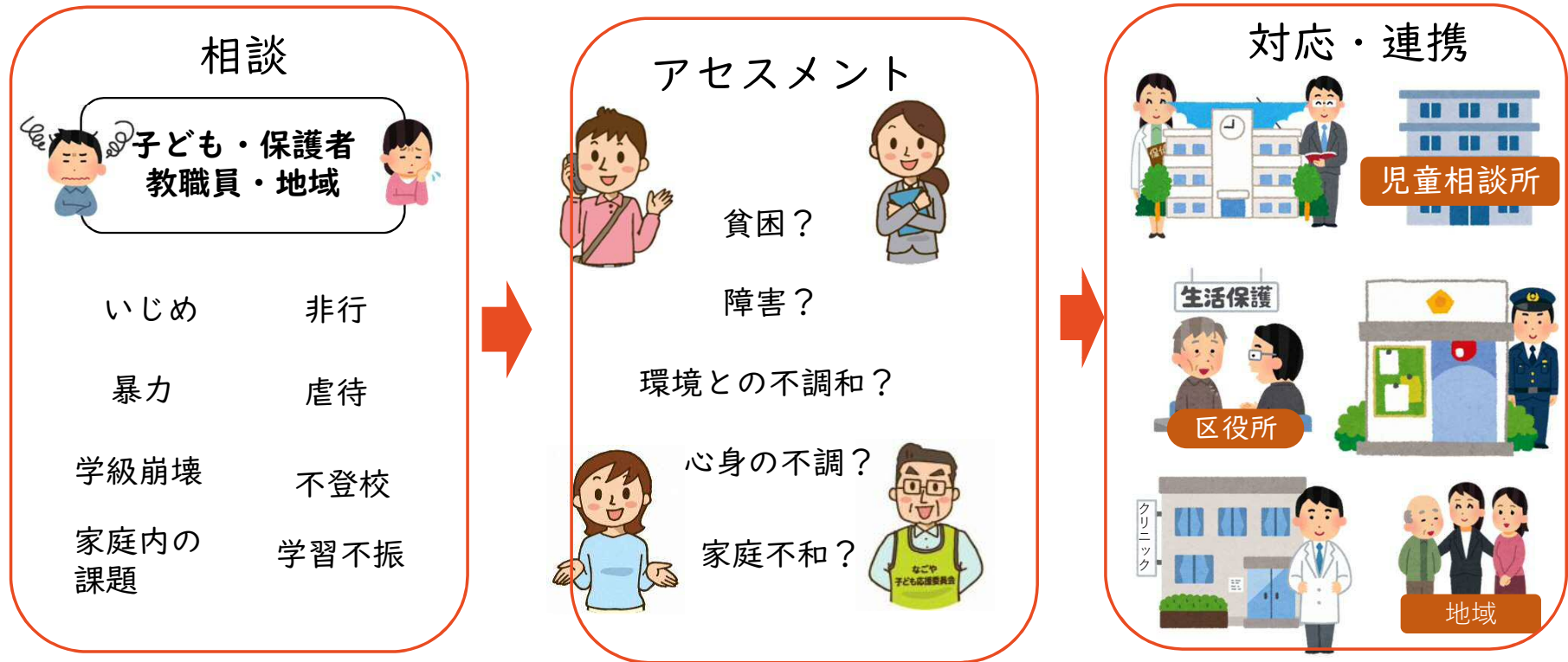
- ・ 情報共有
- ・ 各学校のケース報告・ケース検討
- ・ いじめや自死等重篤事案や緊急対応事案対応の検討
- ・ チームで学校に対応
- ・ 未然防止活動等 取り組みの共有や検討

6～16名
主任HPも参加

個人の力量アップや学校とは違う組織の一員であるという意識の醸成につながっている



相談の流れ



チームで対応する

チームで対応だが、
個人の臨床力は、必須

常勤職員の一日の活動

《スクールカウンセラー》

8：15～	校門あいさつ・登校見守り
9：00～	コーディネーター会議
10：00～	授業観察
11：00～	保護者面談・生徒面談
12：00～	ランチの様子観察・相談室開放
13：00～	保護者面談
14：00～	事務処理
15：00～	生徒面談
16：00～	教員との打ち合わせ
	保護者面談
	教員との打ち合わせ・事務作業

《スクールソーシャルワーカー》

校門あいさつ
コーディネーター会議
面談
関係機関・地域訪問
休憩
事務処理
家庭訪問（関係機関同行）
面談
事務処理
巡回（校内・校外・地域）
家庭訪問

常勤SC育成と研修制度について

新規採用職員には

⇒ ・ 新規研修

- ・ 新規採用者の会（年間8回程度）
- ・ ブロック内でメンター制度を取ることも
- ・ チーム全体（主任HPを含む）でのサポート

全ての職員

⇒ 勤務時間内に年間10回以上の研修受講



ご清聴ありがとうございました

